

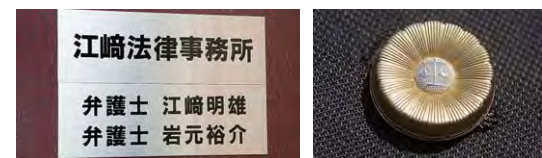


岩元 裕介 Yusuke Iwamoto

江崎法律事務所 (2001年3月 社会科学研究所博士課程前期修了。現在、同研究所博士課程後期に在籍)

—今の法律事務所に入られたきっかけと仕事内容は?

大学院在学中に司法試験に合格し、司法修習生時代にお世話になったことが縁で、この事務所に就職しました。現在の仕事は、交通事故や火災などの保険関係がメイン。過失を検討したり、損害の評価などを行っています。



—実際に仕事をしていて、うれしいこと、大変なことは?

どんな仕事でも同じだと思いますが、人に喜んでもらえるとうれしいですね。弁護士ですから、裁判で勝てば喜びを感じますが、結果として、事件から解放される人や安心して暮らせるようになる人がいる。それが一番うれしいです。

困るのは、裁判になる前の示談の段階で変わった人を相手にするときですね。常識の通用する相手ばかりではないので、でも、うまく解決できると、依頼者にとっても喜んでもらえるので、やりがいがあります。苦労と喜びは表裏一体ですね。

—今まで携わった事件の中で、一番印象に残っていることは?

国選弁護人として、ホームレスのおじいさんの万引き事件を担当したときのことで、その人は80過ぎの高齢で、仕事も身寄りもなく、万引きを繰り返しては、刑務所を出たり入ったりしていたんです。私が受け持ったときも、実刑判

決は確実でした。このままでは、出所後に誰かが面倒を見ない限り、同じことの繰り返しになってしまう。そう考えたので本籍地と氏名だけから30年以上音信不通だった肉親を捜し出し、生活の援助をもらう約束を取り付けました。やはり実刑でしたが、出所後の行き場を見つけたことで、彼の人生にとっては、良い結果になったのではないかと思います、満足しています。

—最後に広大生にメッセージをお願いします。

仕事は人生の中で多くの時間を占めるものです。大学時代には、何でもいいので、自分の好きなこと、やりがいを



感じられることを一生懸命探してください。いつかそれを仕事にできれば、一番幸せなんじゃないかと思います。

また、司法試験などに挑戦する人は、時間を与えてもらっている環境が、とても恵まれているということを忘れないでください。家族や周りの人の支えがあってこそ勉強できるのですから。常に周囲の人たちへ感謝する心を持ってほしい。そうすれば結果もついてくるのでは。なんだか年寄りくさくなっちゃいましたね(笑)

社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたプライベートの話まで、私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤

OB&OG紹介



—病院の薬剤師になったきっかけと現在の仕事内容は?

在学中に実習でお世話になった病院の薬剤師さんが、病棟スタッフや患者様からとても頼りにされているのを見て「やりがいがあるんだろうな! 私もあんな風になりたい!」と思ったのがきっかけです。それに、もともと学生的时候が一番興味があったのが服薬指導でしたから。今は、薬の調剤や患者様への服薬指導、医薬品情報の管理、収集などが主な仕事です。どれも間違えると大変なことになるので、緊張の連続ですね。実習では、現場の厳しさを味わうことが少なかったため、就職してから改めて、責任の大きな仕事だと実感しています。



—心がけていることは?

信頼関係ですね。患者様やスタッフから頼まれたことは、どんなに忙しくても、一つひとつ丁寧に、誠意を持って対応するよう心がけています。それが社会人としての責任かなと。そう努力することで、実習のときに出会った“頼りにされる薬剤師”に少しでも近づける! そう信じて頑張っています。それから、気軽に相談していただけるように、患者様とのコミュニケーションを大事にしています。退院された方が、わざわざ近況の報告や相談に来てくださったりするとうれしいですね。でも、こんな笑い話も…。患者様のところへ服薬指導に行ったはずが、話題がそれてしまい「結局あなたは何をしに来たの?」と言われたときは、恥ずかしかったですよ(笑)

—今後の目標と広大生へのメッセージをお願いします。

仕事上手な人は遊び上手と聞きます。仕事でも私生活でも自分を磨き、すてきな大人になりたいですね。学生時代は、出会える限りの人に会い、チャンスをつかみ、たくさんの経験を積んだ方がいいと思います。直接関係のないように感じることも、将来きっと役に立ちますから。私もいろいろやりましたよ。特に、海外に行って外国の文化に触れ

たことで視野が広がった気がします。内気な性格が多少オープンになり、チャレンジできるようになりました。学業面では、研究がうまくいかず悩んだこともありましたが、解決方法を考える訓練になったと思います。そういった経験が今の仕事に生きていますね。



捻橋 久美 Kumi Nejihashi

翠清会梶川病院 薬剤部 (2002年3月 医歯薬学総合研究科修了)

—忙しいときでも平常心で対応できる、すてきな大人になりたい



取材を終えて



弁護士といえば、法学部の人間にとって殿上人に等しい存在。お会いする前は、すごく緊張しましたが、物腰の柔らかいとても気さくな方だったので安心しました。でも、その言葉の一つひとつに知性と人間の大きさを感じ、インタビュー中に再び緊張。特に、広大生へのメッセージが印象的で、自分の甘さを反省しながら心して聞きました。

取材・記事 / 法学部3年 田川 裕祐



落ち着いたやさしいしゃべり方が印象的だった捻橋さん。退院された方が気軽に会いにこられるという話にも納得。取材後に「仕事上手は遊び上手」という言葉を思い出して、私生活の事ももっと質問すれば良かったと後悔しました。学生時代の経験が、社会に出てからも役に立つという話を聞き、僕もこれからは何でも積極的にチャレンジしていきたいと思いました。

取材・記事 / 工学部2年 金山 浩輝